

# 教育センター通信

## ほど 火床の火の心を紡ぐ

第5号（通算第11号）  
平成26年9月1日  
三條市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行



縦割班で安全マップを作成

### セイフティーアドベンチャー（防災キャンプIN三條）

目的：災害を想定した避難所での体験的活動などを取り入れることにより、学校が行う防災教育の更なる定着を図り、災害時においても生き抜く力を身につけさせる。〔8月7～8日、第四中学校区〕

## 象は鼻が長い。

教育センター指導主事 小池 和秀

この文の主語は、「象は」でしょうか、「鼻が」でしょうか。  
もしくは、一文に主語が二つ存在するのでしょうか。

- (1) 「象は」が主語（主部）で、「鼻が長い」が述語（述部）。
- (2) 「象は」を題目（心理的主部）、「鼻が」が主語、「長い」が述語（?）。

「象は」で話し手の気を引きます。「これから象の話をするぞ、聞け」という感じで。文は「象は」で切れていて、「鼻が（主格補語）」「長い（ただの形容詞）」。

そもそも、日本語に無理に主語を見つけようとするから、このような問題が発生するのです。この文には主語はありません。「象は」は主題（または題目）で、「鼻が」は主格補語です。

「象の鼻が長いこと」を文にするとき、「象の鼻は長い。」という表現もできますが、「象」を主題にすれば「象は鼻が長い。」という文になります。

「象は」の助詞「は」は、文の題目を示すとともに、助詞「の」を兼務しています。この「象は鼻が長い。」の文で、文の柱となるものは述語「長い」であり、「象は」「鼻が」の両文節は、述語に対して同格の修飾語（連用修飾語）であると考えます。

これまで「主語」としてきた文節は、述語に対する修飾語のひとつであると考えます。主語がないからこそ、「象は鼻が長い。」の主語を特定する作業に無理があるのです。

それならば…

「カキ料理は広島が本場です」の「カキ料理は」は主語でしょうか？

「私は緑が好き」の「私は」は主語でしょうか？

「山が見える」の「山が」は主語でしょうか？

「水が飲みたい」と「水を飲みたい」では主語が違うのでしょうか？

「何食う？」「俺（は） pasta。」

答は各中学校区の中学校の国語の先生にお聞きください。

## 第2回小中一貫教育基礎研修会を開催(8月4日)



転入・新採用教職員を対象にした標記研修会を教育センターで開催しました。最初に丸山指導主事が、第四中学校区オリジナル「グループエンカウンターでやる英語対話活動」の冊子を例に外国語・英語の授業作りについて説明しました。次に小杉指導主事が「教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習」で見られた受講者の前向きな姿勢・取組等を紹介しました。

その後、各中学校区の現況について、第二中阿部教頭先生と大崎小桐生教務主任から実践発表をしてもらいました。

第二中学校区では、一体校のメリットを生かし、日常生活の中でふれあい、日常的な交流を行っていること、中1数学のT・T授業を通して学習内容が深まったと感じる中学生が増えている等小中一貫教育のよさが出ている。大崎中学校区では、「小中音楽交流会」「小中連絡会」「PTCAボランティア活動」など以前からの小中連携の取組(基盤)の上に、小中一貫教育を推進しており、教職員の意識も高まっている。二つの実践発表から、小中一貫教育が浸透していることを実感しました。

【受講者の声】 ※総合的な評価 ・参加してよかった：76% ・まあよかった：24%

- ・多忙感いっぱいの毎日で挫けそうになることもありましたが、2学期からまた協力しながら明るく笑顔で子どもたちを育てていこうと思うような元気がもらえる、力がもらえる研修でした。
- ・両中学校区の小中一貫教育の取組がよく分かりました。子どもたちの活動の紹介があり、自分の学校でもできたらいいなと思うものもたくさんありました。
- ・様々な場面で小中一貫教育の工夫した取組が行われていてすばらしいと思いました。
- ・「あれもやっています」「これもやっています」と総花的であるが、本質的に何が効果的だったのかの検証があるとたいへん参考になると感じました。

## hyper-QU研修会を開催(8月5日)



昨年度大好評だった標記研修会を今年度も実施しました。QU創始者の河村茂雄早稲田大学教授から『「hyper-QU」を活用した学級づくりと児童生徒支援の充実』という演説で70分間熱く語られました。(受講者約200名)

- ・hyper-QUの結果に一喜一憂せず次の支援に生かす。
- ・教員が同じ座標で子ども、学級集団を捉えることにより具体的なチーム連携をする第一歩とすることが大事。
- ・学級集団を見る視点は「ルール」と「リレーション」  
ルール：集団で安心して生活するための基本的なルール  
リレーション：安心して本音を言い合えるような人間関係

- ・【管理型】はベテラン教員担任の学級に多い。【なれあい型】は若手教員担任の学級に多い。
- ・【集団への全体指導のポイント】①学年団、学校全体で各学級の状態を共有し、対応の方向性をそろえる。②集団の型を把握し、ルール、リレーションの状態を明らかにし、足りない対応を意識的に補う。③集団発達の段階に合わせて、子どもが不安なく次の段階に進むための取組を意識的に仕組む。④学級内の子どものソーシャルスキルの状態を把握し、授業や行事等の展開方法を工夫する。

【受講者の声】 ・2学期からの取組への意欲が増しました。学級経営を早くやりたいです。

- ・「困り感を察知する」という言葉がとても心に残った。困り感をキャッチできる教師でありたい。
- ・組織で取り組むことの大切さを再認識できた。学校に帰り、各クラスの実態を把握したいと思う。校内研修があるので、共通理解しながら子どもたちの困り感を一緒に考えていきたい。

## 第10回 わくわく科学フェスティバル 8月6日（水）

第10回目となる「わくわく科学フェスティバル」は、150名の指導・活動支援スタッフで展開された16のブースを850名の参加者が巡り、思い思いの科学体験を楽しむ一日となりました。

自然の不思議に直接ふれ、科学実験や工作等を通して身近な自然事象や科学技術に興味・関心を向けて、好奇心や探究心を高める体験を広く幼児児童生徒に提供することを主眼に据えて、三条市が科学教育推進事業実行委員会により実施している夏のイベントです。

暑い一日でしたが、会場の栄体育館はキラキラと目を輝かせて活動に没頭する子どもたちと、その姿に温かいまなざしを注ぐ保護者の皆さん、そして、意義深く楽しい活動を安全に提供しようと支援するスタッフの熱気にあふれました。

「一日、すごく遊べた。来年もまた来たいです。」「初めて来てみて、すごくおもしろかったです。自分でしてみたい実験ができてビックリしました。」と参加児童のアンケート記載。

「今年は、新しいブースがいくつかあってとても楽しかったです。もっと時間が欲しかったです。説明を聞きながら体感できてとてもよかったです。」と保護者の声。

「参加者は話をよく聞き、大変マナーがよいと思いました。どのブースも楽しそうな姿が見られました。中学生が活動に参加しているのがとてもよいと思います。」とご指導いただいた大学の先生の言葉。

長岡技術科学大学、新潟工科大学、長岡造形大学、(株)コロナの研究開発センター、三之町病院、県央工業高校、理科センター、NPO 良環、NPO 星空ファクトリー、そして市内小中学校の生徒、教職員有志の方々から支えていただき、大変意義深いイベントとなりました。各校のご協力ありがとうございました。



※「わくわく科学フェスティバル」は、三条市の特色ある教育の一つである「科学教育推進事業」の中心とも言える事業です。その他、「子どもの科学教室」（物理教室、生物教室、星空教室、地学教室、科学教室）「科学ゼミナール」「科学・模型工作教室」を実施しています。

# 教育センター「教職員研修」「開設講座」 9月～12月

9月 ※①対象者 ②実施日 以下同様

## 【第2回マネジメント研修】

- ①管理職・小中一貫教育推進リーダー  
コーディネーター ②9日(火)

## 【教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習】

- ①小中学校教員、各教科15名以内  
②16日(火)、17日(水)

## 【小学校教員から学ぶ研修】

- ①中学校教員 ②19日(金)

## 【特別支援教育研修会】

～特別な配慮に基づく授業づくり研修会～

- ①小中学校教職員 ②29日(月)

## 【中学校教員から学ぶ研修】

- ①小学校教員 ②30日(火)

## 【防災教育研修会No.2(授業研究)】

- ①防災教育担当者等 ②下旬

## 【ホームページ作成、管理研修会】

- ①小中学校教員 ②9月以降全4回実施

10月

## 【ハイパーQ.U活用研修会No.3】

- ①小中学校教職員 ②6日(月)

## 【英語・外国語 小中連携研修】

- ①小中学校教員 ②上旬

## 【保護者、関係機関との連携と支援の方法】

- ①小中学校教職員 ②23日(木)  
(特に特別支援教育コーディネーター)

11月

## 【不登校児童生徒へのコーディネーター力向上研修】

- ①不登校担当者等 ②13日(木)

## 【全国学力・学習状況調査を活用した授業改善研修】

- ①国語科・算数数学科担当教職員 ②中旬

## 【三条市小中一貫教育フォーラムin三条】

- ①市内(県内、県外)教育機関関係者  
市内教職員 一般市民 ②21日(金)

## 【メンタルヘルス研修会】

- ①小中学校教職員 ②下旬

12月

## 【第3回マネジメント研修】

- ①管理職・小中一貫教育推進リーダー  
コーディネーター ②9日(火)

## 【授業力向上実践研修Step1研修】

- ①採用2年目～5年目の教員  
②研究授業 9月～11月

## 【授業力向上実践研修Step2研修】

- ①採用7年目～10年目の教員  
②研究授業 9月～11月

※第4回学習会 11/25(火)～28(金)

## 【三条学講座】

No.5	三条刃物について	9/12(金)
No.6	秋の大崎山を訪ねてⅡ	10/10(金)
No.7	包丁づくり	11/8(土)

## 教育の窓

～高校の「総合的な学習」の現状を紹介します(続)～

全校生徒への紹介の時、応援団の指揮のもと1・2年生が校歌を歌って歓迎の意を表してくれました。懐かしい校歌に感激し、私たち社会人講師も思わず口ずさんでいました。各分野から選ばれた講師は多彩な顔ぶれでした。気象庁予報部職員、自動車メーカー勤務者、医師、獣医、弁護士、元NHK職員、信託銀行行員、地域助け合いネットワーク職員、元防衛大学教官、音楽家、元小学校長(M)。

全体会終了後、各教室へ赴いて講話に入りました。私が担当する教育分野には70名の生徒が目を輝かせて待っていました。「教師はやりがいのある仕事です！」と題して90分の話をしました。高校時代や大学時代の暮らし・思い出、教師になって良かったこと・苦労したこと・やりがい等を38年間の教員生活を振り返り、エピソードを交えて語りました。学生時代にやっておくべきこととして「本をたくさん読む」「サークルに入り様々な人と交流する」「パソコン操作に慣れておく」の3点を強調しました。教員になるには「公正・公平・公共、好奇心、根気・やる気・勇気、ストレスに強いこと」を挙げました。(以下略)  
先日届いた生徒の感想文集に目を通し、私の話がお役に立てたことが分かり嬉しくなりました。(M)

☆2学期は各種行事が目白押しです。体育祭、展覧会、音楽祭など子どもたちが楽しみにしている行事を通して子どもたち一人ひとりが達成感・充実感を味わえるように指導・支援に努めてください。

☆秋の全国交通安全運動が9月21日から30日まで実施されます。“秋の道、早めのライトで 事故防止”